

zuiun

其の三十八

新築住宅内覧会

完全ご予約制

こあがりにおあがりたもうぞ

坪庭に臨む
和室

ウッドデッキのある
中庭

大人のための
書齋
スペース

吹き抜け
リビング



小上がり畳コーナーには
掘りごたつ

見どころ満載で
おじゃ…ござる

9月12日(土)・13日(日) OPEN 10:00 CLOSE 18:00
会場：金沢市久安1丁目地内

ご予約制のため 店頭・メール(info@zuiun.jp)・お電話(076-213-5505)にて
事前にお申込みください。受付後、地図など詳細情報をお送りさせていただきます。

株式会社 ZUIUN / ZUIUN建築設計事務所 月～金 11:00～20:00 火曜定休(祝日の場合は営業)
〒921-8804 石川県野々市市野代1-8 www.zuiun.jp 土日祝 10:00～20:00 ※定休日が変わりました

衣=食=住。

zuiun便り vol.35

あらためて、「衣食住」とは何でしょうか。色々な辞書や書籍などで調べてみると、その意味は大きく分けて2つあります。

1. 衣服と食物と住居。生活をしていく基礎。

2. 暮らしを立てていくこと。暮らし向き。生計。これらから読み取れるのは、「日々の暮らしを送る上で、人にとって最低限必要なもの」といったところですかね。突然ですが、ここで問題です。なぜ「衣・食・住」の順なのでしょう。

衣食住 住食衣 食住衣
衣住食 住衣食 食住衣

6通りの中から、なぜ「衣・食・住」の順番なのか。ゴロがいいから？リズム感？なんとなく？諸説あるようですが、「人が生きていく上での優先順位」が最も多く言われる衣食住の順番の理由です。現在、主に「住」に携わっているズイウンスタッフとしては寂しいような…。

優先順位ということ、必要な順。これに関して疑問に思う方も多いかもしれません。異論を唱える人も多いです。ですが、とある研究者の、「生まれたて赤ちゃんを想像してください。お母さんのお腹の中から一生懸命出てきた赤ちゃんは、体温調整が未熟なので、まずおくるみ(衣)で包んであげます。そして、授乳(食)し、少し泣き止んだらコット(住)で寝かせますよ。だから衣食住なんです。」との発言を聞き、少し納得。また、震災被害に遭った方は、「まず、濡れた服を着替えたかった。着替えがなく、毛布(衣)に包まり暖をとった。そのあと、水や食料(食)で空腹を満たし、雨風のしのげる場所(住)を確保した。」とおっしゃっていました。ここでも衣・食・住の優先順位が見て取れます。

衣・食・住の順番の理由が、本当に優先順位によるものなのかを結論付けるつもりはありませんが、私たちに必要なものの順番が本当に「衣v食v住」の順であるかを、少し考えてみたいと思います。

まずは「衣」。衣服を身に着けることで暑さや寒さ、または

紫外線などの自然環境の変化、汚れや細菌、身体から出る汗から身を守り、身体を安全かつ清潔に保つ役割を担っています。また、現代では「ファッション」としての色合いが強く、考えや主張、個性を外部に発信するために最も重要なものです。次に「食」。これは言うまでもなく、満足できる生活を送るために、食べることで身体に栄養素を取り入れ、健康な体を維持するためにはなくてはならないものです。現代では、無添加、無農薬、オーガニック食品など、より身体への影響を重要視した食物を好む傾向があります。

最後に「住」。つまり住居、お家。人が豊かな生活を送るために必要なあらゆる設備が備わっている建物やその空間。寝て起きて、食べて、家族と触れ合って、安らいだ時間を過ごすために、人や人の生活を守るためのものです。現代では、より快適に、よりおしゃれにと、付加価値を求める声も多いです。

これまで書いてきて、感じたこと。それは、「衣食も住も人が健康で豊かな生活を送るために必要不可欠なもの」ということ。衣服は身体を守り、食物は身体を作り、住まいは生活そのものを守るもの。どれも優先ではなく、すべてが必要。「衣・食・住」は「衣v食v住」ではなく「衣||食||住」だということ。

私たちが創業時からずっと想い続けていること、それは「豊かな暮らしの提案者になりたい」。物質的要素、経済的要素、感情的要素、何をもって豊かな暮らしと感じるかは、価値観によって個人差があります。私たちが携わっている建築の分野は、人が住むための居住空間、つまり器を作ること。だから、その器の中の生活にも携わり、提案していきたい。それこそが、本当の意味での「豊かな暮らしの提案者」だと思います。「衣食住」のすべてにおいて、お客様のお役に立てる会社を目指し、広い視野と行動力をもって進んでまいります。

先程、「衣食住が優先順位によるものなのかを結論付けるつもりはありません」と言いましたが、最後にはつきり言います。「衣食住の順番はたまたま」だと(笑)。